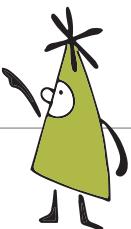




議論しよう！

## どうなる！？未来の学校



現在、パソコンやタブレット端末などの機器や、AIを使ったデータ分析などさまざまな技術が教育現場に導入されつつあります。全国の学校では1人1台タブレット端末が配られて、コロナ禍にはオンライン授業が行われたり、授業の資料や連絡事項をタブレット上で見られるようになったりと、これまでアナログで行なわれていたことがデジタルで行われるようになりました。これからはデジタルへの移行にとどまらず、児童・生徒一人ひとりに合った学習の提案や、教育データの利活用など、教育にさまざまな形で技術を活用することが目指されています。

活用  
技術

すでに始まっている

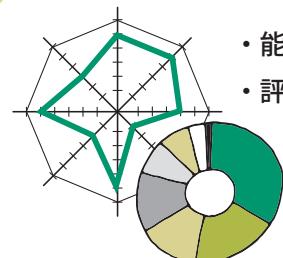
萌芽的

すでにある

- ・個別最適化学習
- ・教育ダッシュボード



- ・能力測定
- ・評定、入試活用



萌芽的

- ・出席確認
- ・悩み測定
- ・議論内容の可視化
- など



## EdTech(教育 × テクノロジー)は、どこまで進んでいる？

もうすでにはじまっているのは、

①ドリル問題と映像授業を個別対応的に出題・提示する個別最適学習。

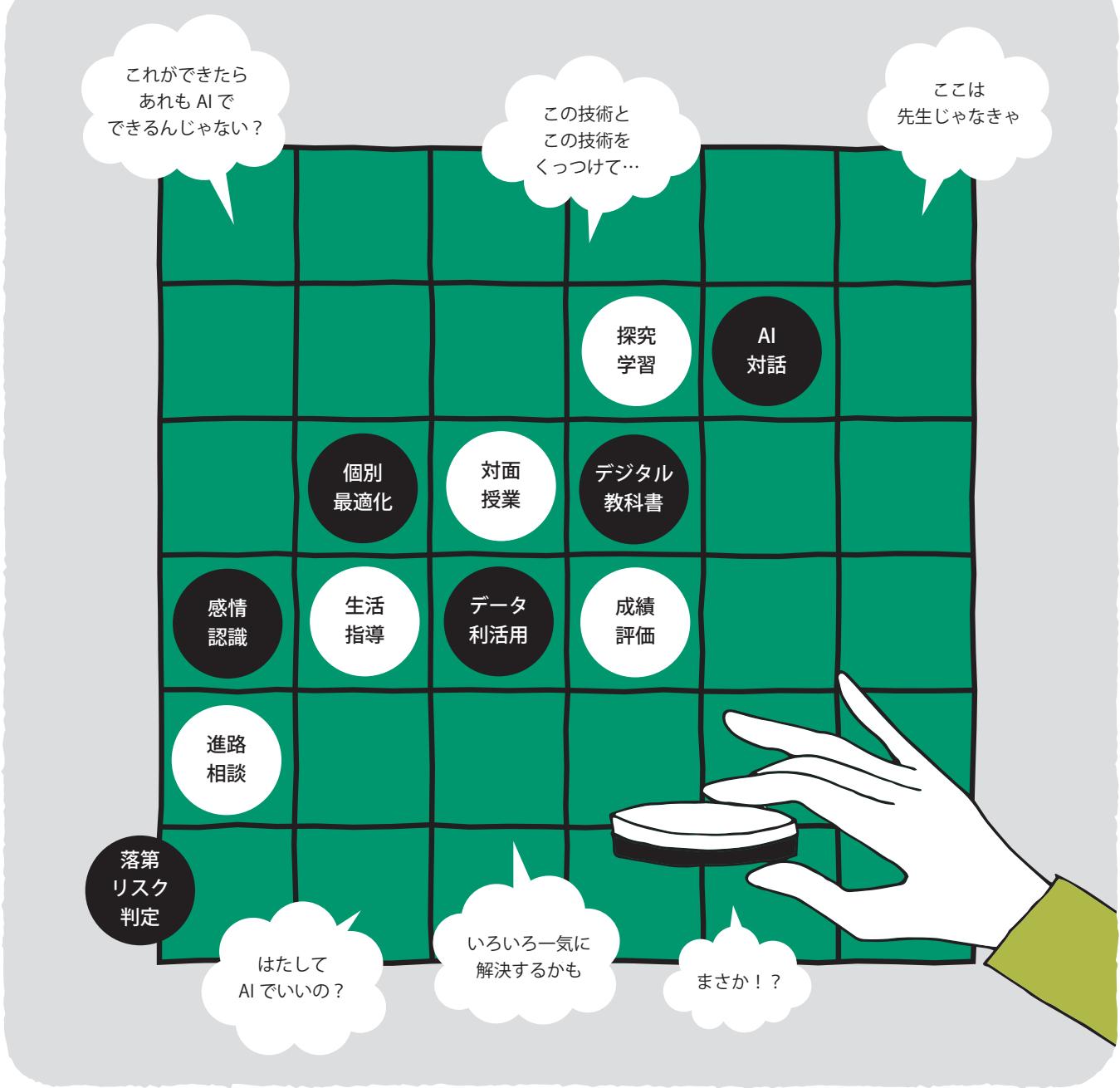
②さまざまなシステムに散在しているデータを集約して可視化し、情報把握できる教育ダッシュボード。

技術はすでにあるけれども、活用はまだ萌芽的なのは、

③能力測定 EdTech による評定・入試活用。

技術も活用もまだ萌芽的なのは、

④顔認証・音声認識 EdTech による出席確認・感情・集中力・悩み測定、議論内容の可視化。



## 教育現場に「テクノロジー」が入ること。

AIの技術そのものが、とてつもないスピードで進んでいます。

これからさらに、さまざまな技術の導入が考えられますが、

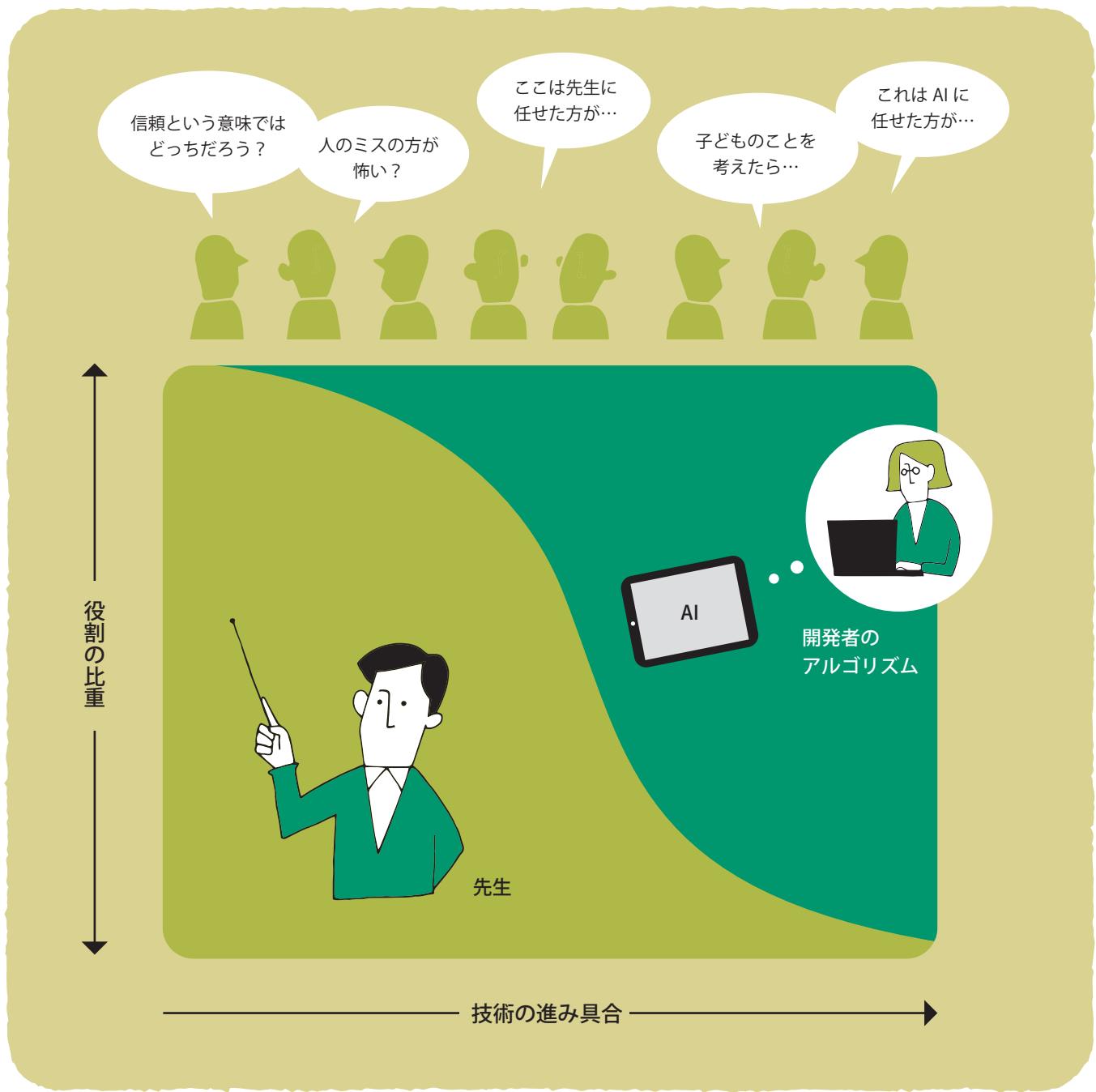
それらが徐々に教育の現場に入ってきて、オセロのようにそれに置き換わっていくと、

本来、先生のやるべきことも、知らず知らずのうちに無条件にAI化されることも予想されます。

また一つ一つの技術が組み合わさったときに、予想もしなかった課題がでてきたり、

従来大切にされてきた、教育に関する責任の所在もあいまいになったり、

これからどんな影響が広がるか、期待と同時に、懸念もあります。



## 学校って何だろう？先生って何だろう？

教育現場にさまざまな技術が導入されることで、どんどん新しいことができるようになります。

今まで先生が行なっていたことも、AIが代わりに行なうことができるようになるのかもしれません。

でも、悩みごとや進路の相談相手がAIだったら・・・？

授業態度を生徒の身体のデータからAIが判定するとしたら・・・？？

先生が担ってきたことを技術に置き換えるとき、将来的にどのような課題が出てくるのでしょうか。

先生の代わりにAIが「やっていい」とこと、

先生の代わりにAIが「できてしまう」とこととの違いはどこにあるのでしょうか。